

やきもの展のご案内

LIXILギャラリーは株式会社LIXILの文化活動としてやきもの展を開催しています。タイルから茶碗まで、やきものは私たちの心豊かな暮らしを彩ります。「生活とアート」をコンセプトに、森 孝一氏(美術評論家・日本陶磁協会常任理事)をアドバイザーに迎えたセレクションです。

徳澤守俊展—白と黒の融合—

会期:2020年4月2日(木)~2020年6月16日(火)

会場:LIXILギャラリー



「焼締朝鮮唐津花器」
H300×W175×D223mm

本リリースに関するお問い合わせ先 |

LIXIL ギャラリー (www.livingculture.lixil/gallery/)

所在地: 東京都中央区京橋 3-6-18 東京建物京橋ビル LIXIL: GINZA 2F

担当: 水野慶子 大橋恵美

TEL: 03-5250-6530

Email: xbn@lixil.com

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、
2020年3月3日(火)から3月15日(日)まで 臨時休館いたします。
なお状況によりましては休館期間が変更になる場合もございますので、
あらかじめご了承ください。
最新情報は当ホームページにてご確認ください。



LIXIL ギャラリーでは2020年4月2日(木)～2020年6月16日(火)の期間、「徳澤守俊展—白と黒の融合—」を開催します。

徳澤守俊氏は、大学卒業後、唐津焼の人間国宝十二代中里太郎右衛門(無庵)氏の元で学んだのちに、白と黒の釉薬で装飾する「朝鮮唐津」に挑みます。伝統を学びながら、二つの釉薬の流れを最大限に活かすフォルムを追求し、2007年の第五十四回日本伝統工芸展で「文部科学大臣賞」を受賞します。その後も、釉薬の流れと焼締めた肌の「土色」の対比を表現した新しい「朝鮮唐津」を発表し観る者を魅了しています。本展では、徳澤氏の造形と釉薬の美学が顕われた代表作8点を展示いたします。



「朝鮮唐津花器」
H450×Ø 370mm

開催概要 | 徳澤守俊展—白と黒の融合—

会期	2020年4月2日(木)～2020年6月16日(火)
休館日	水曜日、2020年5月24日(日)
開館時間	10:00～18:00
企画制作	株式会社 LIXIL
会場	LIXIL ギャラリー
入場料	無料
詳細	https://www.livingculture.lixil/topics/gallery/g3-2004/

関連イベント |

イベントを開催する場合は、公式ホームページにてご案内いたします。

| 展覧会の見どころ |

「朝鮮唐津」は、藁灰釉の白と鉄釉の黒で華やかに装飾する唐津焼の一つです。白と黒の釉薬が溶け合っできる景色が見どころですが、二つの釉薬の融点に 100 度程の差があることから調合や焼成が難しく、美しい釉薬の流れを出すには長い年月が必要な技術でもあります。徳澤氏は、絵具では表現しきれない独特の釉調の美しさに魅了され、十二代中里太郎右衛門（無庵）氏から唐津焼を学んだ後に、多種多様にある唐津焼から「朝鮮唐津」を選び挑み続けています。

徳澤氏の作品の魅力の一つであるエッジの立った三角形や大きな算盤の玉、雫の形などのフォルムは、白と黒の釉薬の流れを最大限に生じさせ“瀧の光を受けた瀑布”や“凍夜のオーロラ”などの景色を生み出します。また釉薬をかけない部分をのこす「かけ残し」により焼締めた肌の緋色を見せ、釉薬の流れと焼締めの対比を表現し、新しい「朝鮮唐津」の域に達しています。

本展では代表作 8 点を展示いたします。伝統に学んだ確かな技術と現代的な感性による大胆な表現を併せ持つ徳澤氏の朝鮮唐津の世界をご覧ください。

| 作者略歴 | 徳澤守俊 (TOKUSAWA Moritoshi)

- 1943 京都市で生まれる
- 1967 唐津焼人間国宝、十二代中里太郎右衛門（無庵）先生に師事
- 1972 福岡県粕屋郡須恵町皿山にて築窯、独立
- 1974 日本橋三越にて初個展、以後各地にて個展
- 1977 日本伝統工芸展初入選 以後 28 回入選
- 1983 日本工芸会正会員となる
- 2005 佐賀県立有田窯業大学校 非常勤講師
- 2007 第 54 回日本伝統工芸展
文部科学大臣賞受賞 文化庁買い上げ
- 2009 第 20 回日本陶芸展招待出品
- 2010 第 3 回智美術館大賞展「現代の茶—造形の自由」優秀賞受賞
- 2012 第 44 回伝統工芸陶芸部会展 日本工芸会賞受賞
- 2015 第 32 回田部美術館大賞 茶の湯の造形展 奨励賞受賞



LIXIL は、創業期のクラフトマンシップを今に語り継ぎ、常に建築家やデザイナーと手を携え、機能性と洗練された美しさの融合を追求してきました。それこそが、私たちが掲げる「LIVING CULTURE」というコンセプトです。私たちはミュージアム、ギャラリー、資料館および出版活動を柱とした文化活動を通して、ものづくりの技と心を次世代に伝え、斬新なアイデアを発信する場を提供し、LIVING CULTURE を表現していきます。LIXIL は、ものづくりにこだわり、ライフスタイルや時代に合った美しく機能的な製品を作り続けることで世界中の人びとの豊かで快適な住生活の未来に貢献していきます。